GyouseiNews.Com The Gyousei Chosa Shimbun 行政調査新聞

平成 29 年第 9 回定例会（12 月議会）

川合市長……この男には市長の大任は務まらない

「被災者の苦しみを逆撫でする自省なき発言」

本紙は 12 月定例会開催日に議会を傍聴し、川合善明という川越市長の存在に強い失望感と、胸込み上げる怒りを抑えることができなかった。

川合という人物は**「火傷をするまで火の熱さを知らぬ身勝手な小賢しい男」**に過ぎなかった。何故なら、彼は被災者の悲しみ苦しみなど、屁とも思わぬ無責任極まる男だからだ。

でなければ報道機関を前に偽言など吐けない。彼の部下に向けた責任転嫁を川越市民他、県下全市民が知った今、報道機関に対する偽言は取り返しがきかないのだ。

12 月議会開催日の「**質疑・答弁**」をピックアップした。

今野英子市議の質疑

◆市長が 24 日の夕方、インターネット上で寺尾地区の甚大な被害を知ったという記者会見に関しての事実確認を問う。

市長の答弁

「24 日の午後と言った方が正確かも知れない」と報道機関を前にした発言を訂正した。

本紙の見解

11 月 1 日報道陣を前に「**寺尾地区の甚大被害を 24 日の夕方にネットで知った。市長への報告がなかった為**」という記者団を前に事実を隠蔽し、全ての責任を部下に負わせた偽言に対する反省もなく、更にまた「**夕方**」を「**午後**」に替えるという詭弁を弄し報道陣のみならず、市民を代表する市議を前に虚言を言い募る卑劣な姿勢は、被災者の苦しみを逆撫でするものである。

小林薫市議の質疑

◆被災者への義援金は、およそ１３００万円。市長には退職金として２３００万円が入ったのだから、被災者の方々へ寄付されたらどうか。また市長の給与を返上し、被災者のために無償奉仕してはと問う。

市長の答弁

「退職金等、無償奉仕については全くその考えはない」…。

本紙の見解

報道陣を前に責任逃れの答弁や被災者に対する無償奉仕など全くする気がないなどと、市民を代表する市議を前に冷たく言い放つ。被災者に対する血も涙も無い答弁は、被災者の苦しみを更に逆撫でする。

片野広隆市議の質疑

◆今議会で「寺尾地区の甚大被害を知ったのは 24 日夕方」と新聞報道されたことを「24 日の午後」と修正した。記者会見で発言したことを議場で訂正や内容を変えることが続いている。公の立場で議会や記者会見での発言の重要性や信頼性をどのように考えているのか。

市長の答弁

「公の立場での発言は重要で慎重でなければならないと考えている」…。

本紙の見解

この答弁でも判るように、川合市長はその場での自己弁護や思い付き発言が多く、いかに議会や報道機関を軽視しているかが見て取れる。川合市長は重要で慎重な発言をしなければならないと、言いながらも他を顧みない発言で失態を繰り返す。この人格欠落者を市長に置く被災者の苦しみは如何ばかりか。

◆現地視察を 25 日午前に決めたということであるが、何故すぐに現地へ向かわなかったのか。

市長の答弁
24 日、要望活動で県庁並びに国土交通省へ出向いていた「その移動の車の中でインターネットを見た」。要望活動が終わったのが午後５時近くで、そのまま現地へと行けばよかったが、その時点の判断ではもう既に排水も終わっていることであるから直ぐに行かなくてもいいであろうという判断をした。

本紙の見解
川合市長は被災した寺尾地区の実情を知りながらも「**直ぐに行かなくてもいいだろう**」と判断する心無き男だ。己が行政執行の長である認識の欠如が「**人災へと繋がる悲劇を呼んだ**」ことの最大原因であることに一片の反省もないのだ。県庁や国土交通省への要望など後でもよい。23 日直ちに被災地へ自ら飛んで行くことにこそ市長としての市民に対する誠意ある行動ではないのか。

川合市長は台風の去った後の 10 月 24 日、要望活動で県庁並びに国土交通省へ出向いた「**その移動の車の中でインターネットを見た**」という。いわゆるその時点、始めて被災地区の甚大な災害を知ったが如く述べているが、災害が甚大である旨は、23 日の早朝「**災害対応部長会議**」よりの報告で理解していた。市のトップが被害確認のために現地へも飛ばず、市庁舎で通常業務をしていたなど己の責任を回避する事のみに終始する姿勢を許せないのだ。
また 11 月 29 日の定例会で片野市議の質疑に対し、11 月１日の報道陣を前にした虚言を訂正もせず、甚大な被害を夕方ネットで知ったなどとする言質を改め「**移動の車の中でインターネットを見た**」などと時刻を少し早めに訂正したに過ぎず、今野市議の質疑に対しても同様未だに自己弁護の詭弁を吐き続けているのだ。

川合善明市長と中野英幸県議が話し合い、山口泰明代議士に国交省と財務省の橋渡し（仲介）を依頼。この時点で公明党は蚊帳の外となる。
11 月９日（木）川合善明市長・高畑博市長・神山佐市代議士（国交省の玄関で市長らと合流）の３名で国交省・財務省に要望書を提出した。
中野県議は同行せず神山代議士は、川合・中野両氏の動きを後に知ったという。

◆「100世帯ほどの浸水、住民をボートで救出などの報告は受けていたとしつつ、水が出やすい場所だったので、これまでと同様大規模ではないだろうと思った」と市長の言葉で報道されている。
１００世帯以上に浸水被害が出ていれば大規模災害と考えるのが常識的だが、市長は報告を受けた段階では、これまでと同様大規模ではないだろうと思い込む判断をしている。
市長の中で大規模と思われる被災状況は、どれくらいの被害で大規模となるのか。
市長の答弁
何とも申し上げようがない。少なくとも今回の報告を受けた時点では、この地域で起こりうる被災から、こ

れほどかけ離れているとは受け止めなかった。

本紙の見解

川合市長の発言に「**１００世帯ほどの浸水、住民をボートで救出などの報告は受けていた**」と言いつつ「**水が出やすい場所だったので、これまでと同様大規模ではないだろうと思った**」と現地の被害に対し高を括り、即被災地に飛んでいかなかった。

川越市を統括する川合市長に、被災住民の受けた苦しみや悲しみを屁とも思わぬ男の無責任で非情な姿が見て取れる。この言葉は、川越市民を代表する市議諸氏を前に吐いた心無き被災者に対する「**肺腑を抉るが如き血も涙も無い**」川合市長の暴言である。

己の考えのみが正しいとする**独善主義。**この人物の緊急事態に向けた冷たい反応が今回、寺尾地区の「**人災**」に泣く被災者の頭上に更に冷水を浴びせたのである。

市議諸氏は川合市長発言と、この人物が台風による災害発生当時、自宅に在って市庁舎に足を向けなかったことを「**不適切ではない**」との開き直り、川越市の統括者にあるまじき様々な反市民的発言等々、この人物がどれ程に川越市民の安寧の妨げとなっているかを市議諸氏は厳しく審議しなければ市議としての役目は無となる。ことに自民党に所属する市議諸氏には、川合市長にべったりと取り付く姿勢は決して被災市民のための救済には結び付かないことを強く認識しなければ、自民党の市議諸氏に信頼を託した市民は以後、自民党市議諸氏との離反を余儀なしとするだろう。

現在の川越市政の歪みを正すべく、市議諸氏による川越市政改革の覇気を川越市民は強く望むのだ。諸氏の使命は、市民を守護する事が最大使命なのだ。

市民の税の重みを請ける使命感を胸に受け止め、必死に働くことを願う。

◆寺尾小学校での第一回説明会において市長は**「災害発生後の対応等に遅れをとり、御迷惑をおかけしたことを心からお詫びします。」**と川越市の不手際に対して謝罪を行っているのだから、市長が責任を取るのが筋ではないか。

市長の答弁

「責任の取り方は今後、検討していく」…。

本紙の見解

川合氏が市長に就任して以来、議会での謝罪は数知れず。今回は謝罪で済まされない重大事案である。検討する時間など無駄なのだ。即刻辞職をするべきである。そうなれば被災者の方々の気持ちも、少しは晴れるだろう。